



沼中だより

学校教育目標：「個」・「心」・「力」

10月号

2025年10月3日発行
逗子市立沼間中学校
校長 熊谷 啓明

<新生徒会長誕生>

9月24日、生徒会長選挙が行われました。

立候補した妹尾宝さんは、堂々とした態度で、聴く人の心にしっかりと届く演説を行い、信任投票の結果、新しい生徒会長に選出されました。演説では、「生徒が過ごしやすい服装で学校生活を送れるよう、クールビズ期間を延長すること」、「天候に左右されず給食後にも運動ができるよう、昼休みに体育館を開放すること」の2点を具体的な公約として掲げ、「生徒一人一人に寄り添い、生徒が主体となって活動できる学校をつくりたい」と訴えました。妹尾さんには、これからの生徒会活動の中心として、大きな役割を果たしてくれることを期待しています。沼間中学校がさらに良い学校となるよう、ともに頑張っていきましょう。

<一票の重みを伝えた、選挙管理委員長の言葉>

選挙管理委員長・吉岡啓太さんのスピーチも、強く心に残りました。

「自分の一票なんて変わらない」「どうせ決まっている」と思って投票を棄権する人が実際にたくさんいます。7月に行われた参議院選挙でも、約半分の有権者が投票しませんでした。けれど、彼はそうした風潮に対してしっかりと「それは違う」と訴えました。一人ひとりの意思表示が、社会の方向を決めていく。だからこそ一票は重いのだと。

選挙管理委員というと、通常は投票の運営を黙々とする「縁の下の力持ち」的な存在です。しかし今回、堂々と意義のある言葉を語ってくれたことに、とても感動しました。

本校では、毎年3年生を対象に「政治的教養を育む授業」を行っています。こうした取り組みが、少しずつ生徒たちに根付き始めているのだと実感した瞬間でした。

<民主主義とは何かを考える、生徒会選挙>

演説会の冒頭、私は「民主主義とは何か」という話をしました。私たちは「民主主義＝多数決」というイメージを持ちがちですが、それは一部にすぎません。民主主義とは、意見の対立があったときに、力や怒声、あるいは無視によって解決しようとするのではなく、議論を重ね、対話を通じて合意点を探していく営みです。

その合意形成には、次の4つの条件が欠かせません。

- ・公平で公正な投票制度があること
- ・言論の自由が保障されていること
- ・法の支配がしっかりと機能していること
- ・メディア（新聞、ラジオ、テレビなど）が偏りなく、公正な報道をしていること

中学生である皆さんにとっては少し難しいかもしれませんが、この4つが整ってはじめて、私たちは対等に話し合い、納得できる結論に近づくことができます。

今回の生徒会長選挙は、「ただの学校行事」で終わるのではなく、民主主義を考えるきっかけとなつてほしいという思いから、このような話をさせていただきました。皆さんそれぞれが、自分の意見を持ち、他者と対話しながら考える力を育ててほしいと願っています。

<後期のスタートと行事に向けて>

10月10日（金）に前期が終了し、14日（火）からは後期がスタートします。この後期は、各学年で大きな行事が控えています。

1年生は「横浜めぐり」です。横浜のさまざまなスポットを班別行動で巡ります。歴史と文化を肌で感じながら、近現代の日本の歩みにも関心に向けてほしいと思います。私個人としては、港の見える丘公園・フランス山地区にある「愛の母子像」をぜひ訪れてほしいと思っています（この話はまた後日、改めて）。

2年生は「自然体験学習」に出かけます。学校を離れた環境で、自然と向き合いながら、仲間と協力する経験は、何よりの成長の機会です。準備の段階からスムーズにいくとは限りません。意見がぶつかったり、気持ちがすれ違ったりすることもあるでしょう。そんな時こそ、先に述べた「対話による合意」の力が大切です。民主主義は、社会だけの話ではなく、私たちの毎日の人間関係の中にもあるのです。

3年生は、いよいよ進路選択の山場を迎えます。不安や焦りを感じている人もいることでしょう。けれど、沼間中学校の先生たちは、皆さんの味方です。わからないことや不安なことがあったら、一人で抱え込まず、どうか気軽に先生たちに相談してください。もちろん、信頼できる家族や友人に話してみるのも、とても大切なことです。一人じゃないということを、どうか忘れないでいてください。

また、3年生では、12月に毎年恒例の授業「政治家にインタビューをしよう」が実施されます。

10名ほどの政治家の方々をお招きし、直接お話を伺いながら、質疑応答を通じて考えを深めていく貴重な機会です。この授業で得られるのは、単なる知識だけではありません。自分たちの生活や将来について考える視点を育むことができる、実践的な学びの場です。

私は、生徒一人ひとりに「将来、必ず選挙に行く」という意識を持ってほしいと願っています。政治に関心を持つということは、暗記に励むこととは違い、「自分と社会の関わり」を見つめるきっかけになります。そしてその気づきは、きっと日々の学びへの意欲やモチベーションにもつながっていく——私はそう信じています。

<最後に>

学校とは、教室だけではない学びの場です。意見を交わし、聴き合い、時には対立を抱えながらも対話を重ねていくことで、人として成長していく。皆さん一人ひとりが、民主的な思考と対話を大切にしながら、後期を充実したものにしてくれたらと思います。

文責：校長 熊谷 啓明